

古くて新しい魅力たっぷり

# はぜ 榾の世界へようこそ！

## 榾の木とは

榾の木はウルシ科の落葉高木です。葡萄の房のような実をつけ、毎年、晩秋になると、非常に鮮やかで美しい紅葉が九州の山野を彩ります。

## 日本の伝統産業

榾の実を搾った榾蠟は、貴重な天然油脂、特に和ろうそくの原料になるため、江戸時代中期より藩の奨励作物として、いたるところに植えられました。

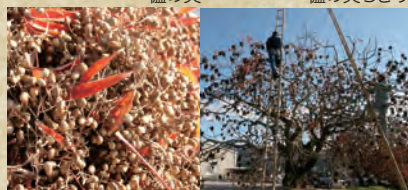
明治年間の実の生産量は約1億5千万斤（9万トン）。九州は全国でも榾の主要産地であり、激動の幕末〜明治維新を資金面で支えた一大産業でした。

## 日本の蠟・榾蠟

榾蠟は他の蠟に見られない粘靱性を

榾の実ちぎり

榾の実



持っています。  
これは独特の脂肪酸成分である日本酸（Japan Acid）を含んでいるためで、海外ではJapan Wax、榾の木はJapan Wax Treeと呼ばれています。  
すなわち、日本を代表する蠟であり、樹木と言えるでしょう。

## 榾の商品は榾マケしない

榾といえば「榾マケ（かぶれ）」。その原因は生の樹液に含まれるアレルギー成分「ラッコール」ですが、空気（酸素）と熱に弱く、熱で抽出した榾蠟の段階で消えています。例えば和ろうそくを灯しても、かぶれることはありません。

## 松山榾復活委員会の活動

松山榾復活委員会  
代表 矢野 眞由美

## 榾の良さを知ると変わる

### 「松山榾」との出会い

私が生まれ育った福岡県久留米市は全国でも有数の植木苗木の生産地です。たまたま久留米市の植木の歴史を調べると、榾の最高品種である「松山榾」が地元で発見されて広まったことで植木苗木の里になったことを知りました。

### 激減する榾への危機感

しかしさらに調べると、現在の榾産業は生産量は100トン程度と激減。松山榾の蠟も生産されていないばかりか、そ

もそも木が次々に伐採され、激減していることを知り、このままでは榾がなくなのではと、強い危機感を感じました。  
榾なんか、なくなった方がいい  
と言い放った人も

平成19年、私は松山榾復活委員会を立ち上げ、微力ながら振興活動を始めたのですが、当初は榾マケのせいで榾を嫌う人からは「榾なんか必要ないし、なくなった方がいい！」と面と向かって言われた事もあり、榾を応援したり、新たに榾を植栽する困難さに直面しました。

## 榾の魅力を知ると変わる

榾は嫌われる一方で、美しい紅葉を愛する人や、日本伝統の和ろうそく職人から原料確保への切実な声もあります。

私は簡単な和ろうそく作りなどの体験活動に重点を置きました。参加者はこどもから年配の方まで様々です。

榾を知る体験をすると、榾への見方がガラリと変わります。おまけになんと新たに植栽する人達まで生まれてきました。これは活動への大きな励みです。

## 榾ならではの珠玉の逸品

私は新たな視点から榾ならではの商品開発に取り組みました。いずれも榾の魅力たっぷりの、他にない商品ばかりです。これらの商品の利益によって、榾の振興活動は今も続けられています。



松山榾



榾染体験

和ろうそく芯作り実演



榾の実ちぎり体験

榾の接ぎ木

